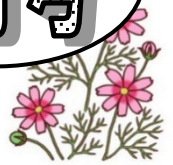




まなびや

東市ヶ尾



日々の何気ない仕事の中に見える 素晴らしさ — 委員会活動の様子から —

校長 後明 好美

暑い夏を過ぎ、秋の訪れを感じる季節となりました。9月初めには、4年の高尾宿泊体験学習が実施されました。2年ぶりの4年の宿泊は、子どもたち一人ひとりの成長と学年としての高まりを感じる2日間でした。10月には、2年ぶりの休日開催の運動会も予定しています。ここでも、子どもたちが大きく成長していくことを期待しています。

休み時間の廊下でみられた 上級生らしさ

中休みや昼休み、できる限り1階中央階段下にいるようにしています。校庭に急いで出ていく子どもたちが走ってけがをしないよう見守るとともに、あいさつをしたりじゃんけんやちょっとした会話を交わしたりすることを楽しみにしています。

先日もいつものように立っていると、6年生が廊下にある体育備品の棚に来ました。その子は体育で全校の子が使うビブスの籠を一つ一つ棚から取り出し、一枚ずつたみ始めました。黙々と作業をするその子に「運動委員会？」と声をかけると、小さくうなずき、作業を続けました。

1色につき20枚弱あるビブスを1枚1枚畳む作業は、根気と時間のかかるものなので、大変だろうと私も少し手伝いました。すると、近くを通りかかった同級生が「どうしたの?」「何やってるの?」と、その子に声をかけました。そしてごく自然に、その子を手伝い始めました。数人でやると速く終わるもので、休み時間の中頃でその作業が終わると、同級生の子たちはそのまま去っていきました。黙々と自分の仕事をする委員の子の姿と、それを見てさりげなく手伝う仲間の姿に、本校の最高学年の素晴らしさと優しさを感じました。

別の日には、同じ運動委員会の5年生の子が体育備品の棚に来て、同じようにビブスを畳み始めました。その子は、手書きの作業書のようなものを持っていて、それを見て確認しながら「よし、次は・・・。」とストップウォッチの引き出しも開け、一つひとつストップウォッチの紐を丁寧に本体に巻いて、きれいに棚の中に並べていきました。委員会で決まった仕事を上級生に教えてもらい、しっかりと手順をメモして、その一つ一つをととても丁寧な作業とするその5年生の姿に、同じく感心しました。

学校を支え 自分を高める 上級生の仕事

学校の中で上級生としての仕事は、さまざまあります。大きな行事の司会や代表の言葉の担当といったものから、上のような一見誰にも気付かれにくい細やかな仕事まで、多岐にわたり学校生活を支えています。堂々と司会や代表の役割を果たす子どもたちと同じように、決して目立ちほしくないけれども、決められた仕事を黙々と、誠実に行う子どもたちにも、しなやかなたくましさを感じます。下級生たちは、行事での上級生の姿を見たり、体育でビブスを使ったりするときに、自分たちの日々が、上級生たちの素敵なおアイデアや誠実な作業によってよりよくなっていると感じていくのだと思います。そしてやがて自分が上級生になったときには、下級生たちを支えていこうとするのでしょう。ヒガイチの素敵なお伝統であることを感じられた、5年生と6年生の姿でした。

運動会でも、上級生たちの素晴らしい姿が見られることでしょう。競技や演技の他にも、上級生たちが運動会を充実させるためにひたむきに取り組む姿にも、ご注目いただくと幸いです。

10月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。